令和6年度 宗像市地域防災計画 新旧対照表

令和6年8月26日

				旧								新				備考欄
				内容								内容				
第	第3節 第1	自然的条件	2 気象					総	第3節 第1	自然的条件	2 気象					最新の
	本市の気象(j	過去 10 箇年)						則	■本市の気象(過去 10 箇年)						情報に
		Ş	. 温(℃	()	総降水量			2		复	煮 温(℃	2)	総降水量			更新
	年	平均	最高 (平均)	最低 (平均)	(mm)			5	年	平均	最高 (平均)	最低 (平均)	(mm)			
	H25 (2013)	16. 1	20. 3	11. 9	1,800				H26 (2014)	15. 6	19. 9	11. 5	1,660			
	H26 (2014)	15. 6	19. 9	11. 5	1,660				H27 (2015)	16. 1	20. 3	12. 1	1,743			
	H27 (2015)	16. 1	20. 3	12. 1	1,743				H28 (2016)	16.9	21. 1	12. 9	2, 152			
	H28 (2016)	16. 9	21. 1	12. 9	2, 152				H29 (2017)	16. 2	20. 5	12. 0	1, 352			
	H29 (2017)	16. 2	20. 5	12. 0	1, 352				H30 (2018)	16. 3	20. 7	12. 0	1,643			
	H30 (2018)	16.3	20. 7	12. 0	1,643				R1 (2019)	16.6	21. 1	12. 3	1, 455			
	R1 (2019)	16.6	21. 1	12. 3	1, 455				R2 (2020)	16.5	20.8	12. 2	1,991			
	R2 (2020)	16.5	20.8	12. 2	1, 991				R3 (2021)	16.7	21.4	12. 4	1,767			
	R3 (2021)	16.7	21. 4	12. 4	1,767				R4 (2022)	16.4	21.0	12. 0	1,070			
	R4(2022)	16. 4	21.0	12. 0	1,070				R5 (2023)	16.9	21.7	12. 5	1,718			
				出典:気温、総隣	本量は、福岡管	区気象台「福岡	県気象月報」					出典:気温、総	降水量は、福岡	管区気象台「福	岡県気象月報」	
	観測史上 1~5	5位の値(年間	見を通じての値)【宗像(福岡県	른) 】				■観測史上 1~8	5 位の値(年間	引を通じての値)【宗像(福岡県	<u>(</u>)]			
	要素名/順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	統計期間		要素名/順位	1 位	2 位	3 位	4位	5 位	統計期 間	
	日降水量	234. 5	196. 0	191.0	181. 0	170.0	1976/1		日降水量	234. 5	196. 0	191.0	181. 0	170. 0	1976/1	
	(mm)	(2009/7/24)	(1980/7/1)	(2018/7/6)	(1981/7/7)	(1980/8/30)	2023/10		(mm)	(2009/7/24)	(1980/7/1)	(2018/7/6)	(1981/7/7)	(1980/8/30)	2024/8	
	日最大 10 分間 降水量	25. 5	21.5	21.5	20. 0	20.0	2009/2		日最大 10 分間	25. 5	21.5	21.5	20.0	20.0	2009/2	
1 1	()						· ·		降水量	20.0						
11	(mm)	(2023/7/30)	(2019/7/18)	(2009/7/24)	(2019/8/29)	(2013/7/3)	2023/10		(mm)	(2023/7/30)	(2019/7/18)	(2009/7/24)	(2019/8/29)	(2013/7/3)	2024/8	
	日最大1時間	(2023/7/30) 68. 0	(2019/7/18) 62. 0	(2009/7/24) 60. 0	(2019/8/29) 59. 0	(2013/7/3) 59. 0	2023/10 1976/1		(mm) 日最大1時間		(2019/7/18) 65. 5	(2009/7/24) 62. 0	(2019/8/29) 62. 0	(2013/7/3) 60. 0	·	
									(mm) 日最大 1 時間 降水量 (mm)	(2023/7/30)					2024/8	
	日最大1時間 降水量	68. 0	62. 0 (2012/7/3)	60.0	59. 0	59. 0	1976/1		(mm) 日最大 1 時間 降水量	(2023/7/30) 68. 0	65. 5	62. 0 (2012/7/3)	62. 0	60. 0	2024/8 1976/1	
	日最大 1 時間 降水量 (mm) 月降水量の	68. 0 (1991/9/14)	62. 0 (2012/7/3) (2021/8/8)	60. 0 (1999/6/29)	59. 0 (2009/7/24)	59. 0 (1991/9/27)	1976/1 2023/10		(mm) 日最大1時間 降水量 (mm) 月降水量の 多い方から (mm)	(2023/7/30) 68. 0 (1991/9/14)	65. 5 (2024/7/1)	62. 0 (2012/7/3) (2021/8/8)	62. 0 (2012/7/3)	60. 0 (1999/6/29)	2024/8 1976/1 2024/8	
	日最大 1 時間 降水量 (mm) 月降水量の 多い方から	68. 0 (1991/9/14) 797. 0	62. 0 (2012/7/3) (2021/8/8) 714. 0	60. 0 (1999/6/29) 693. 0	59. 0 (2009/7/24) 691. 0	59. 0 (1991/9/27) 645. 0	1976/1 2023/10 1976/1		(mm) 日最大1時間 降水量 (mm) 月降水量の 多い方から	(2023/7/30) 68. 0 (1991/9/14) 797. 0	65. 5 (2024/7/1) 714. 0	62. 0 (2012/7/3) (2021/8/8) 693. 0	62. 0 (2012/7/3) 691. 0	60. 0 (1999/6/29) 645. 0	2024/8 1976/1 2024/8 1976/1	
	日最大1時間 降水量 (mm) 月降水量の 多い方から (mm) 年降水量の 多い方から (mm)	68. 0 (1991/9/14) 797. 0 (1980/7)	62. 0 (2012/7/3) (2021/8/8) 714. 0 (2020/7)	60. 0 (1999/6/29) 693. 0 (2021/8)	59. 0 (2009/7/24) 691. 0 (2003/7)	59. 0 (1991/9/27) 645. 0 (1980/8)	1976/1 2023/10 1976/1 2023/10		(mm) 日最大1時間 降水量 (mm) 月降水量の 多い方から (mm) 年降水量の 多い方から (mm)	(2023/7/30) 68. 0 (1991/9/14) 797. 0 (1980/7)	65. 5 (2024/7/1) 714. 0 (2020/7)	62. 0 (2012/7/3) (2021/8/8) 693. 0 (2021/8)	62. 0 (2012/7/3) 691. 0 (2003/7)	60. 0 (1999/6/29) 645. 0 (1980/8)	2024/8 1976/1 2024/8 1976/1 2024/8	
	日最大1時間 降水量 (mm) 月降水量の 多い方から (mm) 年降水量の 多い方から	68. 0 (1991/9/14) 797. 0 (1980/7) 2, 627	62. 0 (2012/7/3) (2021/8/8) 714. 0 (2020/7) 2, 251	60. 0 (1999/6/29) 693. 0 (2021/8) 2, 151. 5	59. 0 (2009/7/24) 691. 0 (2003/7) 2, 058	59. 0 (1991/9/27) 645. 0 (1980/8) 2, 048	1976/1 2023/10 1976/1 2023/10 1976年		(mm) 日最大1時間 降水量 (mm) 月降水量の 多い方から (mm) 年降水量の 多い方から	(2023/7/30) 68. 0 (1991/9/14) 797. 0 (1980/7) 2, 627	65. 5 (2024/7/1) 714. 0 (2020/7) 2, 251	62. 0 (2012/7/3) (2021/8/8) 693. 0 (2021/8) 2, 151. 5	62. 0 (2012/7/3) 691. 0 (2003/7) 2, 058	60. 0 (1999/6/29) 645. 0 (1980/8) 2, 048	2024/8 1976/1 2024/8 1976/1 2024/8 1976年	

	日最大瞬間 風速・風向	29.3 東北東	29.3 東北東	29.3 東北東	27.1 南東	26.6 南	2009/2		日最大瞬間 風速・風向	29.3 西南西	29.3 東北東	29.3 東北東	27.1 南東	26.6 南	2009/2	
	(m/s)	(2015/8/25)	(2022/9/18)	(2015/8/25)	(2020/9/2)	(2020/9/7)	2023/10		(m/s)	(2023/7/30)	(2022/9/18)	(2015/8/25)	(2020/9/2)	(2020/9/7)	2024/8	
					出典:気象庁	(過去の気象を	データ)						出典:	気象庁(過去の	つ気象データ)	
総	第3節 第2	社会的条件	1 人口					総	第3節 第2	社会的条件	1 人口					最新の
則	本市の人口、	世帯数(令和	5年4月末日野	見在)は、96,95	54 人、44,528	世帯である。		則	本市の人口、	世帯数(令和	6年7月末日野	見在)は、96,76	69 人、45,051	世帯である。		情報に
2	人口は、近年	=横ばいとなっ	ている。					2	人口は、近年	横ばいとなっ	ている。					更新
6	世帯数は、杉	核家族化の進行	のため、継続的	内に増加傾向にる	ある。			6	世帯数は、核	家族化の進行	のため、継続的	りに増加傾向にる	ある。			
	65 歳以上の	老年人口(29,4	142 人)は、全	体の 30.4%を	占め、高齢化社	:会であること	を示すとと		65 歳以上の老	年人口(<mark>29, 7</mark>	703人) は、全	体の <mark>30. 7</mark> %を占	らめ、高齢化社	:会であること	を示すととも	
	もに、今後も高	高齢化が進行す	ると予想される	5.					に、今後も高齢	化が進行する	と予想される。					
	■宗像市の。	人口	令和 5 %	年4月末現在					■宗像市の人	√□	令和 6 4	年7月末現在				
		人口		96, 954 <i>J</i>						l l		96, 769 人				
		世帯数		44,528世	帯				-	世帯数		45,051世	帯			
		高齢化率		30.4%					Ī	高齢化率		30.7%				
						出典:	住民基本台帳							出典	1:住民基本台帳	:

総則

第4節 災害危険性 第1 災害履歴 1 風水害等

■主な災害履歴

時代	西曆	年号	月目	災害区	出来事			
	1720	享保 5 年	6/21	豪雨	宗像地方で大洪水			
	1755	宝暦 5 年	8/24	その他	大風吹く、宗像・鞍手・遠賀・上座・下座・夜須・御笠・嘉麻・穂波 被害甚大、潰家 2,830 戸、死者 43 人、斃牛 19 頭、倒木 15,000 本。			
江		文政	8/9	台風	台風、曲村・名残村では家屋崩壊、倒木、死者あり。			
江戸時代	1828	11 年	8/24	その他	希代の大風で大被害、転家・転木著し。			
代			8/29	台風	「希代の台風」、多くの家屋が崩壊。			
	1840	天保 11 年	6/9	豪雨	古今曾有の洪水、郡中で 20 箇所余り土手切れ。 稲元・曲り・光岡・久原・東郷・田熊・両西郷・久末・川筋大破損、8 崩田数凡 200 町、当上納容赦になる。			
	1850	嘉永 3 年	6/1	 豪雨 宗像地方に大洪水、大暴風雨、宗像地方困窮し救援米 8,420 る。 豪雨 未曾有の大雨洪水、村民困窮、暴風烈雨、家屋倒壊、草木材過去帳にある。ただし、旧暦である。 豪雨 大暴風雨で関釜連絡船が沈没。 				
時 明代 治	1893	明治 26 年	9/4~6	豪雨	未曾有の大雨洪水、村民困窮、暴風烈雨、家屋倒壊、草木枯死すると 過去帳にある。ただし、旧暦である。			
	1912	大正元 年	9/23	豪雨	大暴風雨で関釜連絡船が沈没。			
大正時代	1914	大正 3 年 9/24 豪雨		豪雨	大暴風雨のために、県下の漁船 127 隻が行方不明となった。			
	1918	大正7 年	7/10	豪雨	未曾有の大雨洪水、村民困窮、暴風烈雨、家屋倒壊、草木枯死する。 過去帳にある。ただし、旧暦である。			
昭和	1927	昭和 2年	7/7	豪雨のため鹿児島本線東郷ー福間間と赤間ー海老津間のトンネルガー時不通。				
	1930	昭和 5年	7/8	台風	大台風によって県下の死者 61 人、負傷者 266 人、行方不明者 26 人			
	1930	昭和 5年	7/18	豪雨	暴風雨で宗像郡では47戸全壊、筥崎八幡宮の拝殿も倒れる。			
	1935	昭和 10 年	6/26~ 7/2	豪雨	県下に大豪雨があった。 死者 124 人、家屋流出 222 戸、半壊 408 戸 浸水 73,788 戸となっている。			
昭和	1936	昭和	7/22~ 23	台風	台風による県下の死者 92 人、家屋全壊 435 戸、半壊 370 戸、その4 の被害があった。			
代	1941	昭和 16 年	6/25~ 29	豪雨	26 日、学校帰りの女子学生が濁流に呑まれ死亡。 28 日 18 時 30 分頃、川端橋が流出し、吉田岬方面の交通は途絶。大i 水による福岡県下の被害は、死者 55 人、橋の流失 137 箇所、家屋のi 失崩壊 647 戸、浸水家屋 41,904 戸である。			
	1945	昭和 20 年	9/16∼ 17	台風	枕崎台風(昭和の三大台風)があり、最大風速は27.8m(宮崎県細島で最大瞬間風速75.5m/sを記録)で県下に被害を与えた。			
	1949	昭和 24 年	8/17	台風	ジュディス台風で河東は冠水のため船で連絡。			

第4節 災害危険性 第1 災害履歴 1 風水害等

■主な災害履歴

3

時代	西曆	年号	月日	災害区	出来事				
	1720	享保 5	6/21	豪雨	宗像地方で大洪水				
	1755	宝暦 5	8/24	その他	大風吹く、宗像・鞍手・遠賀・上座・下座・夜須・御笠・嘉麻・穂 被害甚大、潰家 2,830 戸、死者 43 人、斃牛 19 頭、倒木 15,000 本。				
江		-ba-71.	8/9	台風	台風、曲村・名残村では家屋崩壊、倒木、死者あり。				
江戸時代	1828	文政 11 年	8/24	その他	希代の大風で大被害、転家・転木著し。				
代		11 4	8/29	台風	「希代の台風」、多くの家屋が崩壊。				
	1840	天保 11 年	6/9	豪雨	古今曾有の洪水、郡中で 20 箇所余り土手切れ。 稲元・曲り・光岡・久原・東郷・田熊・両西郷・久末・川筋大破損、 崩田数凡 200 町、当上納容赦になる。				
	1850	嘉永 3 年 6/1		豪雨	宗像地方に大洪水、大暴風雨、宗像地方困窮し教援米 8,420 包を受ける。				
時 明代 治	1893	明治 26 年	9/4~6	豪雨	未曾有の大雨洪水、村民困窮、暴風烈雨、家屋倒壊、草木枯死する 過去帳にある。ただし、旧暦である。				
	1912	大正元 年	9/23	豪雨	大暴風雨で関釜連絡船が沈没。				
大正時代	1914	大正 3 年		豪雨	大暴風雨のために、県下の漁船 127 隻が行方不明となった。				
, ,	1918	大正 7 年	7/10	豪雨	未曾有の大雨洪水、村民困窮、暴風烈雨、家屋倒壊、草木枯死する 過去帳にある。ただし、旧暦である。				
昭和	1927	昭和 2 年	7/7	豪雨	豪雨のため鹿児島本線東郷ー福間間と赤間ー海老津間のトンネル 一時不通。				
	1930	昭和 5年	7/8	台風	大台風によって県下の死者 61 人、負傷者 266 人、行方不明者 26 /				
	1930	昭和 5年	7/18	豪雨	暴風雨で宗像郡では47戸全壊、筥崎八幡宮の拝殿も倒れる。				
昭	1935	昭和 10 年	6/26~ 7/2	豪雨	県下に大豪雨があった。死者 124 人、家屋流出 222 戸、半壊 408 月 浸水 73,788 戸となっている。				
和 時	1936	昭和 11 年	7/22~23	台風	台風による県下の死者 92 人、家屋全壊 435 戸、半壊 370 戸、その の被害があった。				
代	1941	昭和 16 年	6/25~29	豪雨	26 日、学校帰りの女子学生が濁流に呑まれ死亡。 28 日 18 時 30 分頃、川端橋が流出し、吉田岬方面の交通は途絶。大 水による福岡県下の被害は、死者 55 人、橋の流失 137 箇所、家屋の 失崩壊 647 戸、浸水家屋 41,904 戸である。				
	1945	昭和 20 年	9/16~17	台風	枕崎台風 (昭和の三大台風) があり、最大風速は 27.8m (宮崎県細で最大瞬間風速 75.5m/s を記録) で県下に被害を与えた。				

年7月 1日か らの豪

令和6

雨による被害

を追加

	1950	昭和 25 年	9/13~ 14	台風	キジア台風があり、最大風速は 27.2m で県下に被害を与えた。
	1951	昭和 26 年	10/14	台風	ルース台風があって、最大風速は 32.5m という福岡地方を襲った最 大級台風であった。
	1953	昭和	6/25~ 29	豪雨	豪雨による福岡県下の被害は、死者 212 人、橋の流失 1,001 箇所、家 屋の流失崩壊 3,182 戸、浸水家屋 210,932 戸である。
		28 年	6/26	豪雨	麦の収穫期であった為、麦の被害が多くみられた。
	1955	昭和 30 年	9/29~ 30	台風	台風 22 号が来襲し、県下に被害を与えた。
	1956	昭和 31 年	8・9月	台風	台風 9・12・15 号があり、台風 12 号は最大風速 30.2m の大型で県下 に被害を与えた。
	1959	昭和 34 年	7/12~ 16	豪雨	志賀島から玄界離沿いに北上した集中豪雨で、福岡県下で大雨地すべりが多く、宗像地方も大島も被害甚大であった。釣川堤防(県道)が2箇所決潰、大島では死者4人を出す惨事となった。前夜から降り続いた豪雨は、大島中学校の観測では392mmに達した。大島村ではかつてない降雨量である。村民一同、余りの降り方に驚き、夜も眠れない恐ろしさであった。 14 日も東の空が明けそめる頃、急を告げるサイレンが、豪雨の音と共に響きわたった。雨は天の底が抜けたほど、大量に音をたてて降っていた。安昌院の60段からある石段を、一面に切れ目もなく、滝の落ちるように、大河のように水が流れていたとのこと。
	1961	昭和 36 年	9/16	台風	第二室戸台風があった。
	1963	昭和 38 年	6/29~7/3	豪雨	大雨洪水で県下に被害を与えた。
	1966	昭和 41 年	7/1	豪雨	豪雨のため城山峠で土砂崩れ、国鉄・国道3号・電話などマヒ。
	1977	昭和 52 年	6/10	豪雨	大雨が降り、宗像地方の最大降雨量は1日で170mmであった。低気圧と前線によるものである。
	1978	昭和 53 年	9/14~ 15	台風	台風 18 号来襲した。最大風速は 24.4m であった。
	1981	昭和 56 年	7/7	豪雨	豪雨で東郷の旧国道3号が冠水し一時通行止め。
	1986	昭和 61 年	7月	豪雨	田久地区で家屋の浸水被害。
	1995	平成 7年	7月	豪雨	田久地区で家屋の浸水被害。
	1997	平成 9	7/8	豪雨	田久地区の店舗で浸水被害。
平成時代	1998	平成 10 年	5/10~ 12	豪雨	田熊・河東・曲地区でがけ崩れが発生。家屋には被害なし。
叶代	1999	平成 11 年	6/29	豪雨	家屋の浸水、がけ崩れが発生。
		₩ 라.	6/19	台風6号	田熊地区等の数箇所道路の冠水。
ı	2001	平成 13 年	6/23~ 25	豪雨	土砂崩れ、道路の崩落が発生。

	1949	昭和 24 年	8/17	台風	ジュディス台風で河東は冠水のため船で連絡。	
	1950	昭和 25 年	9/13~14	台風	キジア台風があり、最大風速は 27.2m で県下に被害を与えた。	
	1951	昭和 26 年	10/14	台風	ルース台風があって、最大風速は 32.5m という福岡地方を襲った最 大級台風であった。	
	1953	昭和	6/25~29	豪雨	豪雨による福岡県下の被害は、死者 212 人、橋の流失 1,001 箇所、 家屋の流失崩壊 3,182 戸、浸水家屋 210,932 戸である。	
		28 年	6/26	豪雨	麦の収穫期であった為、麦の被害が多くみられた。	
	1955	昭和 30 年	9/29~30	台風	台風 22 号が来襲し、県下に被害を与えた。	
	1956	昭和 31 年	8・9月	台風	台風 9・12・15 号があり、台風 12 号は最大風速 30.2m の大型で県下 に被害を与えた。	
	1959	昭和 34 年	7/12~16	豪雨	志賀島から玄界離沿いに北上した集中豪雨で、福岡県下で大雨地すべりが多く、宗像地方も大島も被害甚大であった。釣川堤防(県道)が2箇所決潰、大島では死者4人を出す惨事となった。前夜から降り続いた豪雨は、大島中学校の観測では392mmに達した。大島村ではかつてない降雨量である。村民一同、余りの降り方に驚き、夜も眠れない恐ろしさであった。14日も東の空が明けそめる頃、急を告げるサイレンが、豪雨の音と共に響きわたった。雨は天の底が抜けたほど、大量に音をたてて降っていた。安昌院の60段からある石段を、一面に切れ目もなく、滝の落ちるように、大河のように水が流れていたとのこと。	
	1961	昭和 36 年	9/16	台風	第二室戸台風があった。	
	1963	昭和 38 年	6/29~7/3	豪雨	大雨洪水で県下に被害を与えた。	
	1966	昭和 41 年	7/1	豪雨	豪雨のため城山峠で土砂崩れ、国鉄・国道3号・電話などマヒ。	
	1977	昭和 52 年	6/10	豪雨	大雨が降り、宗像地方の最大降雨量は 1 日で 170 mmであった。低気 圧と前線によるものである。	
	1978	昭和 53 年	9/14~15	台風	台風 18 号来襲した。最大風速は 24. 4m であった。	
	1981	昭和 56 年	7/7	豪雨	豪雨で東郷の旧国道3号が冠水し一時通行止め。	
	1986	昭和 61 年	7月	豪雨	田久地区で家屋の浸水被害。	
	1995	平成 7	7月	豪雨	田久地区で家屋の浸水被害。	
	1997	平成 9	7/8	豪雨	田久地区の店舗で浸水被害。	
平成 時代	1998	平成10年	5/10~12	豪雨	田熊・河東・曲地区でがけ崩れが発生。家屋には被害なし。	
	1999	平成	6/29	豪雨	家屋の浸水、がけ崩れが発生。	
	2001		6/19	台風6号	田熊地区等の数箇所道路の冠木。	

	2003	平成	7/18∼	豪雨	田久・土穴地区で床下浸水、土砂崩れが発生。
	2003	15 年	20	38 (1)	四久· 工八地区(外下夜小、工砂朋/10/2光生。
		平成			
	2004	16 年	10/20	台風 23 号	自由ヶ丘地区でがけ崩れ。また、窓ガラスの破片で負傷者あり。
		平成			
	2005	17 年	9/5	台風 14 号	農作物、地島漁港防波堤が被災。
İ		平成			
	2006	18 年	6/23	豪雨	住家被害(20棟床下浸水)、道路冠水、がけ崩れあり。
		平成			
	2009	21 年	7/24	豪雨	田久地区ほか数箇所で浸水被害、道路冠水。 断水 18,300 世帯。
İ		平成			
	2013	25 年	7/3~4	豪雨	住家被害(3棟床下浸水)、道路冠水あり。
Ì		平成			
	2014	26 年	7/2~3	豪雨	住家被害(1 棟床下浸水)、道路冠水、がけ崩れあり。
		平成	8/24~		
	2015	27 年	26	台風 15 号	住家被害(1 棟床下浸水)、道路冠水あり。
			20		
	2018	平成	7/5 ~ 9	豪雨	住家被害(1 棟一部損壊)、道路冠水、がけ崩れあり。
		30 年			

	平成 13 年	6/23~25	豪雨	土砂崩れ、道路の崩落が発生。
2003	平成 15 年	7/18~20	豪雨	田久・土穴地区で床下浸水、土砂崩れが発生。
2004	平成 16 年	10/20	台風 23 号	自由ヶ丘地区でがけ崩れ。また、窓ガラスの破片で負傷者あり。
2005	平成 17 年	9/5	台風 14 号	農作物、地島漁港防波堤が被災。
2006	平成 18 年	6/23	豪雨	住家被害(20 棟床下浸水)、道路冠水、がけ崩れあり。
2009	平成 21 年	7/24	豪雨	田久地区ほか数箇所で浸水被害、道路冠水。 断水 18,300 世帯。
2013	平成 25 年	7/3~4	豪雨	住家被害(3 棟床下浸水)、道路冠水あり。
2014	平成 26 年	7/2~3	豪雨	住家被害(1 棟床下浸水)、道路冠水、がけ崩れあり。
2015	平成 27 年	8/24~26	台風 15 号	住家被害(1 棟床下浸水)、道路冠水あり。
2018	平成 30 年	7/5~9	豪雨	住家被害(1 棟一部損壊)、道路冠水、がけ崩れあり。
2024	令和 6 年	7/1~2	豪雨	住家被害 (3 棟床下浸水) 、道路冠水あり

総則

3

第4節 災害危険性 第1 災害履歴 2 地震害等

■主な歴史地震履歴

震源 推定 マグニ 最大 宗像の 年号 震源域 深度 加速度 被害等の概要 西暦 チュート 震度 震度 (gal) 筑紫の国で家屋破壊多く、幅2丈、長さ3000 筑紫の 679 天武 7 7 ± 0.5 94 玉 余丈の地割れ発生。 7 0~ 日向灘 24 明応7 伊予で地変多し。詳細不明。 1498 7.5 別府湾で大津波。瓜生島陥没。 文録5 $7.0 \pm$ 1596 大分界 54 大分市 5,000 戸のうち 4,800 戸損壊。 慶長1 1/4 湯布院で山崩れ。 壱岐・対馬で被害大。 元禄 壱岐・ 7.0 83 1700 対馬 潰家 89 戸久留米で有感 13 小城古湯温泉の城山崩れ、温泉埋まる。久 元禄 1703 佐賀県 留米で有感。 1706 宝永3 筑後 久留米・柳川で強い地震。被害記録なし。 潰家は東海、近畿、四国のほか、信濃、甲 斐でも多く、北陸・山陽・九州でも生じた。 1707 宝永4 「宝永 7 905 津波は房総から九州に至る太平洋岸を襲っ た。九州では佐伯で潰家約100戸、津波波高 約3m等の被害あり。 肥後で倒家 980 戸。筑後でも瓦落ち、潰家 九州北 $6.5 \pm$ 1723 享保8 37 もあり、河畔に地割れを生じ、泥を噴出。久 1/4 留米で寺々の石塔倒れる。 延岡城石垣損壊。臼杵で潰家 531 戸など。 1769 明和6 大分県 1/4 柳川でも被害あり。 震害による被害は軽微。 眉山(前山)が崩壊し、土砂が有明海に大量 長崎県 1792 寛政4 6.4 $5 \sim 6$ 島原 に進入し、波高 9mの大津波発生。「島原大 変肥後迷惑| 1831 天保2 佐賀県 6.1 41 佐賀城の石垣が崩れる。詳細不明。 福岡県 1848 弘化4 5.9 34 柳川で家屋崩壊あり。 柳川 32 時間前に東海沖で発生した巨大地震に 1854 安政1 「安政 $5 \sim 6$ 引き続いて発生。関東から九州にかけて大被 害。津波襲来。全国で潰家2万戸以上。 伊予西 7.3~ 1854 安政1 6 $5 \sim 6$ 50 中国・四国・九州で強い揺れ。 7.5 島根沖 浜田県で潰家 4000 戸以上。久留米市付近で 7.1 \pm 1872 明治5 「浜田 7 $5 \sim 6$ 15 0.2 も液状化による被害があった。 地震」 熊本市付近で大被害。計 200 戸以上の潰家 明治 能本 1889 6.3 発生。柳川方面でも潰家 60 戸余。 明治 能本県 6.3 25 阿蘇郡において石垣の崩壊多数など。 1894 27 中部 明治 1895 能本 6.3 25 同上 28 福岡県 糸島半島に被害が集中し全壊7戸、家屋破 84 6.0 明治 而部 **指 58 戸** 1898 31 福岡県 5.8 4 67 上記の最大余震。 4 西部 大正 千々石 島原半島南部で被害大。約200戸の住家が 36 1922 6.9 11 湾 全壊。

第4節 災害危険性 第1 災害履歴 2 地震害等

■主な歴史地震履歴

則

3

マケ゛ニ 震源 推定 最大 宗像の 年号 震源域 深度 加速度 西暦 チュー 被害等の概要 震度 震度 (gal) 7± 筑紫の国で家屋破壊多く、幅2丈、長さ3000余 筑紫の 679 天武 7 94 玉 0.5 丈の地割れ発生。 7.0 1498 明応7 日向灘 24 伊予で地変多し。詳細不明。 7.5 7.0 別府湾で大津波。瓜生島陥没。 **文録** 5 1596 大分界 + 54 大分市 5,000 戸のうち 4,800 戸損壊。 慶長1 1/4 湯布院で山崩れ。 壱岐・対馬で被害大。 1700 元禄 13 7.0 対馬 漕家 89 戸久留米で有感。 小城古湯温泉の城山崩れ、温泉埋まる。久留米で 1703 元禄 16 佐賀県 有威. 1706 宝永3 筑後 久留米・柳川で強い地震。被害記録なし。 潰家は東海、近畿、四国のほか、信濃、甲斐でも 多く、北陸・山陽・九州でも生じた。津波は房総 1707 宝永 4 「宝永月 8.4 から九州に至る太平洋岸を襲った。九州では佐伯 で潰家約 100 戸、津波波高約 3m等の被害あり。 肥後で倒家 980 戸。筑後でも瓦落ち、潰家もあ 6.5 九州北 享保8 37 1723 \pm り、河畔に地割れを生じ、泥を噴出。久留米で寺々 の石塔倒れる。 1/4 7.75 延岡城石垣捐壊。臼杵で潰家 531 戸など。柳川で 1769 明和6 大分県 54 + も被害あり。 1/4 震害による被害は軽微。 長崎県 眉山(前山)が崩壊し、土砂が有明海に大量に進 1792 寛政4 6.4 $5 \sim 6$ 26 島原 入し、波高 9mの大津波発生。「島原大変肥後迷 1831 天保 2 佐賀県 6.1 41 佐賀城の石垣が崩れる。詳細不明。 福岡県 1848 弘化4 5.9 34 柳川で家屋崩壊あり。 柳川 32 時間前に東海沖で発生した巨大地震に引き続 1854 安政1 「安政ト 8.4 5~6 6 いて発生。関東から九州にかけて大被害。津波襲 来。全国で潰家2万戸以上。 7.3 伊予西 1854 安政1 6 $5 \sim 6$ 50 中国・四国・九州で強い揺れ。 部 島根沖 7. 1 浜田県で潰家 4000 戸以上。久留米市付近でも液 1872 明治5 「浜田 $5 \sim 6$ 15 状化による被害があった。 0.2 地震」 熊本市付近で大被害。計200戸以上の潰家発生。 1889 明治 22 能本 6.3 5 $3 \sim 4$ 23 柳川方面でも潰家 60 戸余。 能本県 明治 27 6.3 25 阿蘇郡において石垣の崩壊多数など。 中部 1895 明治 28 能本 6.3 25 同上 福岡県 糸島半島に被害が集中し全壊7戸、家屋破損58 6.0 4 4 84 西部 1898 明治 31 福岡県 5.8 4 4 67 上記の最大余震。 西部

年能登

令和6

半島 地震を 追加

1929	昭和4	福岡県 南部	5. 5	0			20	小国地方で家屋半壊1戸。
1929	PD 711 4	福岡県 南部	5. 1	0			38	雷山付近で崖崩れ等。
1930	昭和5	福岡県 西部	5. 1	30			18	雷山付近で崖崩れ等。
1947	昭和 22	大分県 西部	5. 5	0			25	大分県日田地方で崖崩れ等。
1966	昭和 41	有明海	5. 5	20			15	屋根瓦や壁の崩れあり。
1968	昭和 43	愛媛県	6. 6	40	5	4	6	愛媛県を中心に被害。全壊1戸。
1991	平成 3	周防灘	6. 0	19	4	4	42	建物に軽微な被害あり。
1997	平成 9	山口県 北部	6. 1	12	5 強	4	14	建物に軽微な被害あり。
2005	平成 17	福岡県	7. 0	9	6弱	5 弱	14	福岡市に被害が集中し全壊132戸、半壊243 戸、一部損壊8,478戸(内宗像市67戸)。
2011	平成 23	東北地 方太平 洋沖	9. 0	130	7			東日本を中心に、死者1万5,896名、重軽 傷者6,157名、行方不明者2,536名。犠牲者 の死因のほとんどが津波に巻き込まれたこ とによる水死。
2016	平成 28	熊本地震	7. 3	12	7	4	18	人的被害として、死者 211 名、重傷者 1,142 名、軽傷者 1,604 名。建物被害として、全壊 家屋は約8千棟、半壊家屋は約3万4千棟、 一部損壊家屋は約15万3千棟。
2022	令和3	日向灘 地震	6. 6	50	5 強	3~4		大分県や宮崎県を中心として被害あり

1922	大正 11	千々石 湾	6. 9				36	島原半島南部で被害大。約200戸の住家が全壊。
1929	昭和4	福岡県 南部	5. 5	0			20	小国地方で家屋半壊 1 戸。
1929	四个日 4	福岡県 南部	5. 1	0			38	雷山付近で崖崩れ等。
1930	昭和5	福岡県 西部	5. 1	30			18	雷山付近で崖崩れ等。
1947	昭和 22	大分県 西部	5. 5	0			25	大分県日田地方で崖崩れ等。
1966	昭和 41	有明海	5. 5	20			15	屋根瓦や壁の崩れあり。
1968	昭和 43	愛媛県	6.6	40	5	4	6	愛媛県を中心に被害。全壊 1 戸。
1991	平成 3	周防灘	6.0	19	4	4	42	建物に軽微な被害あり。
1997	平成 9	山口県 北部	6. 1	12	5 強	4	14	建物に軽微な被害あり。
2005	平成 17	福岡県	7. 0	9	6弱	5 弱	14	福岡市に被害が集中し全壊 132 戸、半壊 243 戸、 一部損壊 8,478 戸(内宗像市 67 戸)。
2011	平成 23	東北地 方太平 洋沖	9. 0	130	7			東日本を中心に、死者 1 万 5,896 名、重軽傷者 6,157 名、行方不明者 2,536 名。犠牲者の死因の ほとんどが津波に巻き込まれたことによる水死。
2016	平成 28	熊本地震	7. 3	12	7	4	18	人的被害として、死者 211 名、重傷者 1,142 名、 軽傷者 1,604 名。建物被害として、全壊家屋は約 8 千棟、半壊家屋は約 3 万 4 千棟、一部損壊家屋 は約 15 万 3 千棟。
2022	令和3	日向灘 地震	6. 6	50	5 強	3~4	_	大分県や宮崎県を中心として被害あり
2024	令和6	能登半 島 地震	7. 6	16	7			人的被害として、死者 299 名、重軽傷者 1,327 名、行方不明者 3 名。住家被害として、全壊 6,227 棟、半壊 20,589 棟、床上浸水 6 棟、床下浸水 19 棟、一部損壊 96,258 棟。

3

第4節 災害危険性 第2 災害危険性 1 風水害

本市における水害の危険性についてみると、外水氾濫の場合、水防法の改正に伴い、従来の計画 規模降雨から想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域に見直すよう定められ、福岡県が水防法第 14条1項に基づき、平成30年4月27日に、県管理の水位周知河川の釣川水系(釣川・八並川・山 田川)の想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を、 指定・公表した。この想定は、浸水の想定区域及び浸水深が、これまでのものより広く・深くなり、 これまで浸水想定の区域の外であった区域が浸水区域内となった。市は、この想定最大規模の降雨 による浸水想定区域及び浸水深に基づいたハザードマップを作成して令和2年3月作成の「宗像市 防災マップ」に掲載して全戸に配布した。また、このハザードマップは宗像市の防災ホームページ で公表している。

※このシミュレーションの前提の降雨は釣川流域の6時間の総雨量543mmである。支川の決壊による氾濫、高潮、内水による氾濫は考慮されていない。なお、洪水防御の基本となる計画規模の前提の降雨は、釣川流域の24時間の総雨量245mmである。

第4節 災害危険性 第2 災害危険性 1 風水害

3

本市における水害の危険性についてみると、外水氾濫の場合、水防法の改正に伴い、従来の計画規模降雨から想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域に見直すよう定められ、福岡県が水防法第 14 条 1 項に基づき、平成 30 年 4 月 27 日に、県管理の水位周知河川の釣川水系(釣川・八並川・山田川)の想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を、指定・公表した。この想定は、浸水の想定区域及び浸水深が、これまでのものより広く・深くなり、これまで浸水想定の区域の外であった区域が浸水区域内となった。市は、この想定最大規模の降雨による浸水想定区域及び浸水深に基づいたハザードマップを作成して令和 2 年 3 月作成の「宗像市防災マップ」に掲載して全戸に配布した。また、このハザードマップは宗像市の防災ホームページで公表している。※このシミュレーションの前提の降雨は釣川流域の 6 時間の総雨量 543mm である。支川の決壊による氾濫、高潮、内水による氾濫は考慮されていない。なお、洪水防御の基本となる計画規模の前提の降雨は、釣川流域の 24 時間の総雨量 245mmである。

さらに、令和4年5月に県管理河川の樽見川、吉田川、阿久住川、四十里川、横山川、大井川、朝町川、高瀬川の想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を指定・公表した。市は、この浸水想定区域及び浸水深に基づいたハザードマップを作成して令和6年5月に公表している。

※このシミュレーションの前提の降雨は釣川流域の24時間の降雨量992mmである。

令年想域加うマの状記和浸定のに防ッ作況載のを発しませる。

追加

予				
1.	第3節 応急活動体制の整備 第2 応援体制の整備 6 受け入れ体制等の整備	予	第3節 応急活動体制の整備 第2 応援体制の整備 6 受け入れ体制等の整備	新型コ
防		防		ロナウ
3	災害時の受援能力の強化を図るため、災害時受援計画に基づき、応援・受援体制を整備する。	3	災害時の受援能力の強化を図るため、災害時受援計画に基づき、応援・受援体制を整備する。	イルス
6	また、円滑な受け入れ・受援のため、平常時から相互に交流を深めておくものとする。	6	また、円滑な受け入れ・受援のため、平常時から相互に交流を深めておくものとする。	感染症
	なお、受け入れに際しては、新型コロナウイルス感染症を含む感染症対策のため、会議室のレイア		なお、受け入れに際しては、 新型コロナウイルス感染症を含む<mark>感染症</mark>対策 のため、会議室のレイア	の5類
	ウトの工夫やテレビ会議の活用など、応援職員等の執務スペースの適切な空間の確保に配慮する		ウトの工夫やテレビ会議の活用など、応援職員等の執務スペースの適切な空間の確保に配慮する。	感染症
				への移
				行に伴
				う修正
予	第3節 応急活動体制の整備 第3 避難体制の整備 2 避難所の整備 (2)避難所機能の整備	予	第3節 応急活動体制の整備 第3 避難体制の整備 2 避難所の整備 (2)避難所機能の整備	新型コ
防		防		ロナウ
3	大規模災害の発生時には、避難所については老若男女が長期にわたって使用することも予想され	3	大規模災害の発生時には、避難所については老若男女が長期にわたって使用することも予想され	イルス
3 8	大規模災害の発生時には、避難所については老若男女が長期にわたって使用することも予想される。	3	大規模災害の発生時には、避難所については老若男女が長期にわたって使用することも予想される。	イルス感染症
_				
_	వ _ం		る。	感染症
_	る。 このため、避難所施設の安全性の向上とともに、防災拠点、生活の場としての機能を整備する。		る。 このため、避難所施設の安全性の向上とともに、防災拠点、生活の場としての機能を整備する。	感染症 の 5 類
_	る。 このため、避難所施設の安全性の向上とともに、防災拠点、生活の場としての機能を整備する。 また、新型コロナウイルス感染症を含む感染症対策のため、平常時から、指定避難所のレイアウ		る。 このため、避難所施設の安全性の向上とともに、防災拠点、生活の場としての機能を整備する。 また、 新型コロナウイルス感染症を含む 感染症対策のため、平常時から、指定避難所のレイアウト	感染症 の5類 感染症
_	る。 このため、避難所施設の安全性の向上とともに、防災拠点、生活の場としての機能を整備する。 また、新型コロナウイルス感染症を含む感染症対策のため、平常時から、指定避難所のレイアウ トや動線等を確認しておくとともに、感染症患者が発生した場合の対応を含め、平常時から防災担		る。 このため、避難所施設の安全性の向上とともに、防災拠点、生活の場としての機能を整備する。 また、 新型コロナウイルス感染症を含む感染症 対策のため、平常時から、指定避難所のレイアウト や動線等を確認しておくとともに、感染症患者が発生した場合の対応を含め、平常時から防災担当部	感染症 の 5 類 感染症 への移
_	る。 このため、避難所施設の安全性の向上とともに、防災拠点、生活の場としての機能を整備する。 また、新型コロナウイルス感染症を含む感染症対策のため、平常時から、指定避難所のレイアウ トや動線等を確認しておくとともに、感染症患者が発生した場合の対応を含め、平常時から防災担 当部局と保健福祉担当部局が連携して、必要な措置を講じるよう努める。		る。 このため、避難所施設の安全性の向上とともに、防災拠点、生活の場としての機能を整備する。 また、 新型コロナウイルス感染症を含む感染症 対策のため、平常時から、指定避難所のレイアウト や動線等を確認しておくとともに、感染症患者が発生した場合の対応を含め、平常時から防災担当部 局と保健福祉担当部局が連携して、必要な措置を講じるよう努める。	感染症の5類感染症の6年の6年の7年の7年の7年の7年の7年の8年の7年の8年の8年の8年の8年の8年の8年の8年の8年の8年の8年の8年の8年の8年

予	第3節 応急活動体制の整備 第7 要配慮者安全確保体制の整備 4 帰宅困難者への支援体	予	第3節 応急活動体制の整備 第7 要配慮者安全確保体制の整備 4 帰宅困難者への支援体制	新型コ
防	制 (8)自宅療養者対策	防	(8) 自宅療養者対策	ロナウ
5		5		イルス
0	保健所は、新型コロナウイルス感染症を含む感染症の自宅療養者等の被災に備えて、平常時から、	0	保健所は、新型コ ロナウイルス感染症を含む感染症 の自宅療養者等の被災に備えて、平常時から、	感染症
	防災担当部局(県の保健所にあっては、管内の市町村の防災担当部局を含む。)との連携の下、ハ		 防災担当部局(県の保健所にあっては,管内の市町村の防災担当部局を含む。)との連携の下、ハザ	の5類
	ザードマップ等に基づき、自宅療養者等が危険エリアに居住しているか確認を行うよう努める。ま		ードマップ等に基づき、自宅療養者等が危険エリアに居住しているか確認を行うよう努める。また、	感染症
	た、防災担当部局との連携の下、自宅療養者等の避難の確保に向けた具体的な検討・調整を行うと		防災担当部局との連携の下、自宅療養者等の避難の確保に向けた具体的な検討・調整を行うとともに、	への移
	ともに、必要に応じて、自宅療養者等に対し、避難の確保に向けた情報を提供するよう努める。		必要に応じて、自宅療養者等に対し、避難の確保に向けた情報を提供するよう努める。	行に伴
				う修正
風	第6節 避難対策 第5 避難所の開設 7 新型コロナウイルス感染症を含む感染症対策	風	第6節 避難対策 第5 避難所の開設 7 新型コロナウイルス感染症を含む感染症 対策	新型コ
水		水		ロナウ
応	指定避難所における新型コロナウイルス感染症を含む感染症対策のため、避難者の健康管理や避	応	指定避難所における新型コロナウイルス感染症を含む感染症対策のため、避難者の健康管理や避難	イルス
急	難所の衛生管理、十分な避難スペースの確保、適切な避難所レイアウト等の必要な措置を講じるよ	急	所の衛生管理、十分な避難スペースの確保、適切な避難所レイアウト等の必要な措置を講じるよう努	感染症
5	う努める	5	める	の5類
5		5		感染症
				への移
				行に伴
				う修正
震	第6節 避難対策 第5 避難所の開設 7 新型コロナウイルス感染症を含む感染症対策	震	第6節 避難対策 第5 避難所の開設 7 新型コロナウイルス感染症を含む感染症対策	新型コ
災		災		ロナウ
応	指定避難所における新型コロナウイルス感染症を含む感染症対策のため、避難者の健康管理や	応	指定避難所における 新型コロナウイルス感染症を含む感染症 対策のため、避難者の健康管理や避難	イルス
急	避難所の衛生管理、十分な避難スペースの確保、適切な避難所レイアウト等の必要な措置を講じる	急	所の衛生管理、十分な避難スペースの確保、適切な避難所レイアウト等の必要な措置を講じるよう努	感染症
4	よう努める。	4	める。	の5類
0		0		感染症
				への移
				行に伴

		う修正